



トピックス

メキシコ支部設立

メキシコ支部事務局長 中野まり子

メキシコ支部

メキシコは地理的には北アメリカに属していますが、文化的にはスペイン語を国語とするラテンアメリカに属しています。首都メキシコ市はメキシコの中心部に位置し、標高が富士山の5合目に相当する高地です。そのため、沖縄より南に位置するにもかかわらず、一年中穏やかな気候です。ご存知の方も多いと思いますが、メキシコには古代文明の遺跡が幾つか残っています。有名なのはティオティワカン文明のピラミッドです。エジプトのピラミッドが王家のお墓であるのに対し、メキシコのピラミッドは宗教的な儀式を行っていた神殿です。また、メキシコ市に栄えていたアステカ族の宮殿跡が、1978年に始まった地下鉄工事の際に偶然に発見され、現在では博物館になっています。アステカ族は北方から来た戦闘的な部族で、(鷲がサポテンの木で蛇をくわえているところに都を造れ)という神のお告げを受け、当時、湖だったメキシコ市に都を建設しました。このアステカ族建国の由来がメキシコの国旗に刻まれています。メキシコの国旗は緑、白、赤の三色でイタリアの国旗とよく似ていますが、真ん中の白い部にサポテンの上で、蛇をくわえている鷲の絵が描かれています。国旗を通してメキシコ人のアイデンティティーがうかがわれます。また、ユカタン半島には、マヤ文明を代表し世界遺産にもなっているチチェン・イツァのピラミッドがあります。メキシコが誇るリゾート地カンクンから日帰り観光もできます。カリブ海での休暇と遺跡見物を楽しみたい方は、是非メキシコへいらしてください。

メキシコ支部

2020年2月7日に第一回メキシコ支部総会がメキシコ国立工科大学、クルワカンキャンパスで開催されました。目黒会からは野々村会長、大家副会長、中村海外支部委員長、キャンパススクリエイト安田社長、電気通信大学からは、中野理事、川上課長、安西係長が参加してくださいました。メキシコ支部からは30名近くの参加があり、キャンパス長の歓迎挨拶の後、野々村会長による目黒会の目的及び、主な活動が紹介されました。参加者の簡単な自己紹介の後、メキシコ支部規程(案)の説明及び審議が行われ、全員一致で承認されました。支部規程に基づき、役員の選出が行われました。支部長にはメキシコ国立工科大学のエクトル・ペレス氏が選出され、他に4名の副支部長と事務局長が選出されました。

その後野々村会長から、ペレス支部長にメキシコ支部旗及び、支部助成金が授与されました。中野理事からは、(ひらけ、INNOVATION!)と題する講演をいただき、電通大の教育、研究活動における戦略とその成果のご報告がありました。私たちOBにとって母校の躍進はとても嬉しく、また励みになります。この後、安田氏からは産学官連携のお話を頂きました。メキシコでは存在しないビジネスに、多くの参加者から質問が出ました。最後に集合写真を取り、支部総会を閉会しました。電通大の躍進に目黒会が果たしている役割の大きさを実感いたしました。メキシコ支部も微力ながら貢献できるよう努めたいと思います。メキシコ支部のホームページ www.megurokai-mexico.com をご覧ください。

特集

海外で活躍する同窓生の「今」

私の仕事は、数学的モデルの構築で、抽象的な感がありますが、実際にこのモデルが銀行内で使われ、社会に反映されているのを実感できたとき、自分の仕事へのやりがいを感じます。複雑な現実社会の問題を解決するための数学的モデルの構築のためには段階的に

現在、メキシコ中央銀行で統計及び最適化の部門で研究者として働いています。私の仕事は、メキシコ人及びメキシコに投資している外国人の貯金を必要な時に引き出し可能とするための論理的分析に関連しています。電気通信大学で学んだことは私の人生に対する視野を広げてくれるだけでなく、研究者としての基礎学力、特に数学力の習得に大きく役立ちました。また、自分の考えを他人に整然と伝えるためのスキルも習得できたと思っています。このスキルは、共同研究者との意見交換や研究成果の発表の場で生かされていると思います。



職場で同僚と撮った写真（一番左が筆者）

数多くのステップをクリアする必要があると思います。まずは銀行主催の経済学者によるセミナーに参加し、問題を正確に理解するところから始まります。数学的モデルの構築にしても、試行錯誤を繰り返し、様々なファクターを考慮し最適化していく必要があります。私は毎日、これらのステップを一つ一つクリアするため頑張っています。

メキシコ

電通大で習得した数学力を活かして
メキシコ中央銀行で活躍

Raúl Martínez-Noriega (ラウルマルティネスノリエガ)

(2011年博士後期課程修了)

インドネシア

大学の学科立ち上げに尽力
ダイグナリナジャヤ

(2009年博士後期課程量子・物質工学専攻修了)

2001年、AIEJ（日本国際教育協会）奨学金で電気通信大学の秋学期短期交換留学プログラムに1年間参加しました。その後、文部科学省の奨学金で電気通信大学大学院量子・物質工学専攻に進学して、2006年に修士号、2009年に博士号を取得しました。大学院時代は豊田研に所属し、低コスト、高効率な半導体量子ドット増刊型太陽電池を研究しました。卒業後、日立製作所の生産技術研究所（2011年に横浜研究所に改名）で、電子実装技術開発に携わりました。2014年に帰国することを決めました。日本で身に付けた知識や経験を活かして、新しいことにチャレンジし続けていきたいと思っています。現在、プラセティヤムルヤ大学再生可能エネルギー工学科で講師として仕事をしています。仕事を始めてから、学科はまだ設立されておらず、カリキュラム設計などの学科を立ち上げるようになりました。



プラセティヤムルヤ大学の実験棟の入口で撮影（前列一番左端が筆者）

最近の2年間で、学部の教務課および学生課でも仕事を割り当てられました。今後研究にも改めて力を入れていきたいと思っています。ところで、2017年に目黒会インドネシア支部が設立されてから、メンバーとして活動しています。インドネシアにおいても、日本と連携協力が出来ればと思います。